

令和7年の調査でみられた珍しい魚

水産試験場では、水産資源や海の環境を調べるために、調査船による調査や、市場の水揚物調査を継続的に行ってています。こうした調査の中で、これまで茨城県沖では確認されていなかった“珍しい魚”を発見することがあります。そのような魚の出現は、海水温の上昇や海流の変化など、海洋環境の変動を反映している可能性があり、貴重な指標となるかもしれません。したがって、これらの記録を残すことは、海の変化を読み解く上で重要です。

ここでは、令和7年に茨城県沖で混獲され、これまで論文等の正式な文献記録がなかった魚種を紹介します。記録の証拠として後世に引き継ぐため、魚そのものが手に入った種については、標本を国立科学博物館(NSMT)に、撮影のみできた種については、写真を神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料コレクション(KPM-NR)として登録させていただきました。各種の標準和名の下の番号は、標本または写真の登録番号を表しています。



ハナザメ *Carcharhinus brevipinna*
NSMT-P 154084, 全長 100.8 cm, ひたちなか市
平磯沖, 2025年8月5日

イセエビを刺網で採捕する調査において混獲されました。最大で 3 m ほどに成長するサメの仲間で、東部太平洋を除く全世界の熱帯～温帯域に広く分布しています。本種は胎生で、産まれた時点で 60～80 cm もあることが知られています。この個体は約 1 m ほどと大きいですが、幼魚であると考えられます。



コクチフサカサゴ *Scorpaena miostoma*
NSMT-P 154083, 体長 115.2 mm, ひたちなか市
平磯沖, 2025年7月25日

イセエビを刺網で採捕する調査において混獲されました。似た仲間とは、口が小さいこと、体高が低く頭部の後ろが盛り上がらないこと、側線が胸鰭の上で急カーブしないこと、胸鰭の付け根が皮膚にも鱗にも覆われないことなどで見分けられます。岩礁域の周辺に生息し、最大で 13 cm ほどに成長します。



ヤセオコゼ *Minous pusillus*
NSMT-P 154086, 体長 24.0 mm, 銚田市玉田沖,
2025年4月17日

ヒラメの新規加入量調査において、ソリネットで混獲されました。似た仲間とは、前鰓蓋骨(頬にある骨)の一番上の棘が長いこと、背鰭の軟条数が9～11であることなどで見分けられます。日本の太平洋沿岸では、これまで相模湾が北限として知られていました。砂底や砂泥底に生息する、最大 5 cm ほどの小型種です。



ニラミアマダイ *Opistognathus iyonis*
NSMT-P 154094, 体長 68.3 mm, ひたちなか市
那珂湊沖, 2025年11月12日

イワシ・サバの漁場探索調査において、釣りで混獲されました。似た仲間とは、前部の背鰭棘先端が二叉しないことや、上顎後端の内側に黒色斑があることなどで見分けられます。日本の太平洋沿岸では、これまで東京湾や相模湾が北限として知られていました。浅海の砂礫底に生息しています。



ヒゲソリダイ *Hapalogrenys nigripinnis*

NSMT-P 154089, 体長 79.2 mm, 銚田市玉田沖,
2025年7月24日

ヒラメの新規加入量調査において、ソリネットで混獲されました。下顎にヒゲがありますが、よく似たヒゲダイに比べるととても短く、「ひげ剃り」ダイなのも納得です。ヒゲダイとは、上顎の後ろの方に鱗があることなども異なります。砂泥底域に生息し、最大で 30 cm 以上に成長します。



オオニベ *Argyrosomus japonicus*

NSMT-P 154085, 体長 409.5 mm, ひたちなか市
平磯沖, 2025年9月18日

イセエビを刺網で採捕する調査において混獲されました。大型に成長するイシモチの仲間で、全長は最大で 1.5 m を超えます。西日本では栽培漁業の対象となることもあります。釣りの対象魚としても人気です。河口や岩礁域、砂浜などに生息し、本県沖の遊漁においても、たまに釣獲されるようです。



タイワンイカナゴ

Bleekeria mitsukurii

NSMT-P 154090,
体長 123.5 mm, 鹿島沖,
2025年7月4日

シラスに混じって漁獲されたものを漁業者の方からお譲りいただきました。本種はいわゆる「こうなご」(標準和名:イカナゴ *Ammodytes japonicus*)とは別種の魚で、腹鰭があること、背鰭軟条数が40~43、臀鰭軟条数が14~17と少ないとなどで区別できます。これまで日本の太平洋沿岸では相模湾が北限として知られていました。



ゲンコ *Cynoglossus interruptus*

NSMT-P 154088, 体長 72.3 mm, 銚田市玉田沖,
2025年6月16日

ヒラメの新規加入量調査において、ソリネットで混獲されました。よく似た仲間が多いですが、眼がある側の側線が2本であること、吻が丸く短いこと、背鰭軟条数が105~114、臀鰭軟条数が81~91であることなどで見分けられます。これまで日本の太平洋沿岸では、千葉県銚子が北限として知られていました。泥底から砂底に生息し、最大で 15 cm ほどに成長します。



キビレカワハギ *Thamnaconus modestoides*

KPM-NR 268165, 全長約 38 cm, ひたちなか市
那珂湊沖, 2025年9月9日

那珂湊漁協での水揚物調査にて、写真を撮影させていただきました。標本として残してはいませんが、体側が一様に灰色で模様がないこと、鰓の切れ込みが眼の前半部の下方にあることなどの特徴から、キビレカワハギと同定しました。これまで、日本の太平洋沿岸では、相模湾が北限として知られていました。

(定着性資源部 外山太一郎)

【次回予告】R8.2.6発行の「水産の窓」は、「冬季底魚資源調査結果」を予定しています。